

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3272100268		
法人名	堀建設株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩		
所在地	島根県鹿足郡津和野町河村506-3 (電話) 0856-74-2015		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月28日	評価確定日	平成21年10月15日

【情報提供票より】(21年9月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤11人, 非常勤12人, 常勤換算12.1人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000・39000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	償却期間4年間	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	1,300 円		

### (4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87, 9歳	最低	82歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	津和野共存病院・増野医院・永田歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設来、よりよいホームを目指し様々な面で積極的に改善に取り組んでいるホームである。地域との交流は日常的に行われ、自治会行事の花見では一緒にご馳走作りをしたり、文化祭では利用者が大正琴と歌を披露するなど、地域に溶け込んでいる。利用者の生活を24時間シートに記入し、全職員で意見を出し合いながら一人ひとりの利用者に合わせて柔軟な支援を心がけている。利用者は同法人の運営するデイサービスとも交流しながら楽しみのある生活を送っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「運営に関する家族等の意見の反映」「災害対策」は改善されている。「重度化・終末期に向けた方針の共有」については、職員間での共有に向けての取組みが課題となっている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 管理者、全職員が日々のケアの振り返りを行いながら意見を書き出して評価を行った。課題について会議で話し合い、質の向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの運営状況、利用者の近況や行事、問題点などを報告して、地域への理解や協力要請など行っている。参加者からの意見や要望・提案を運営に反映している。
	重点項目③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時には可能な限り管理者が面接し、話を聞いている。家族から気軽に意見、苦情、相談などを言ってもらえるように雰囲気作りに心がけていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、花見や文化祭、祭り等の地域行事に積極的に参加している。花見では地域の方と一緒にご馳走作りをしたり、文化祭では利用者も演芸に参加し、大正琴と歌を披露して交流を行った。保育園児や小学生、ボランティアとの交流も行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもとに「健やかに、穏やかに寄り添い、敬愛しながらその人らしい輝ける生活を」支援していくホーム独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のスタッフ会議や毎日のミーティング、勉強会などで日々の取り組みの振り返りを行い、理念に基づいたケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の諸行事に参加し、花見では地域の方と一緒にご馳走作り、文化祭では演芸を披露した。保育園児・小学生との交流、フラダンス等さまざまなボランティアグループの来訪も多く開放された場になっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、日々の実践の中から自己評価を行っている。外部評価の改善項目を中心にさらなる質の向上に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況、外部評価の報告、問題事項などを報告し意見交換をしている。地域との交流も増えて、認知症について学習会の依頼もあり出かけるなど、会議での意見が活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段の相談はもちろん、「介護者の会」や認知症についての講演、認知症サポーター養成に出席して事業への協力と連携を図っている。		
@					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会には可能な限り管理者・ホーム長が対応し近況報告をしている。月一回、往診結果と健康状況を報告し、併せて写真を同封した便りを送っている。年4回の広報で職員の異動も知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は面会時に管理者が話を聞き、対応している。アンケート実施の結果、往診の結果を知りたいとの要望があり対応がなされた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の資質向上を考え、法人間の異動を行っているが最小限にしている。利用者への影響がないように配慮されている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は希望に沿って積極的に参加できる体制になっている。段階的な研修や資格取得も支援している。本年も介護福祉士に3名の職員が合格した。内部研修(勉強会)も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同圏域の管理者の連絡会が毎月行われている。職員交流にも参加し、サービスの向上と職員の質の向上に活かしている。参加した職員も学ぶことが多くあったと考えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や体験期間を設けサービスを開始している。通所利用者には日中交流しながら、ショートステイなどでホームに馴染んでもらってから入居してもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「今ある、その人の持てる力」を最大限引き出せるようなケアを目指している。漬物づくりなど利用者の得意な能力を発揮してもらえよう工夫している。経験豊かな知識と知恵は職員にとっても教わるが多く、共に支えあう関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時などゆっくりと話しながら対応できる時間を大切にして引き出している。困難な場合、家族・関係者から出来るだけ情報が得られるよう、協力をお願いしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向、要望を聞き、職員の意見も十分に反映しながら計画を作成して、ケアの統一が図れるように取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のモニタリングの会議で、利用者一人ひとりの「24時間生活シート」を参考にしながら柔軟な見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期入居の受け入れが可能である。医療機関への受診の付き添い、入・退院時の支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医による月2回の往診が行われていて、結果については月1回家族に送付している。必要時には受診も行い、「早期発見・早期治療」を心がけて支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての指針について医師との話し合いも出来ている。入居時から本人・家族と話し合い、意向を受け入れて対応している。職員間での共有化についてはまだできていない。	○	事業所としての体制作りを職員と共に検討して頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	管理者・ホーム長はスタッフ会議や日々のミーティングで確認し、徹底を図っている。職員間でも勉強会の時などお互いに気づきを出し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるがその日の体調、気持を大切にして柔軟に対応している。利用者のペースを尊重し、買い物、散歩、昼寝、レクリエーション、談話など希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持っている力を発揮してもらうように食事の準備から片付けまで職員と一緒にしている。職員も同じテーブルを囲み和やかな食事場面づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が出来る。利用者の希望や状態に合わせて対応している。気持ちが変わる人にはタイミングを見て声がけをしながら入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに役割を持ってもらうよう支援している。貼り絵や裁縫、俳句作り、大正琴の披露など得意な事を行ってもらう場を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向を尊重しながら、日々ホームで飼っている犬との散歩、ドライブ、その日行きたい所への付き添い、時には地区の行事、グラントワのイベントへの参加も支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しており、自由に出入りすることができる。職員が連携して見守りを行っていて、ほとんどトラブルはない。外に出られても、近所の協力、声がけがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会との協力体制も出来、消防署の協力のもとで総合訓練を利用者と共に実施した。避難、通報訓練は定期的に事業所独自でも繰り返し行っている。非常食の備蓄も出来るところから取り組んでいる。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士の指導を受けながら献立を作成している。利用者の状態に応じて、ミキサー食、刻み食、1口サイズ等の対応も行っている。一人ひとりの食事・水分量を記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造作りで明るく清潔感にあふれ、風通しも良い。壁面には利用者の習字や俳句などの作品や行事のスナップ写真、寄贈された版画などが掲示されている。和室にはコタツもあり、ゆったりと過ごせる団欒の場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼寝はベット、夜は畳が良い利用者の方もあり希望に沿って環境づくりをしている。家具などは馴染みの物が持ち込まれ、自分の好きな物を飾って、自分らしい居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。